



第80回記念 センバツ高等学校 野球大会



成章高校 甲子園出場記念 特集号

タカサキ新聞PR版

夢をありがとう!

21世紀枠・愛知代表として成章高校が第80回記念選抜高校野球大会に出場し、大活躍しました。数々の思い出のシーンをご紹介します。



稲谷監督 座右の銘(直筆)



エース 小川泰弘選手



岡部仁・毎日新聞中部
本社代表より選抜旗を
受け取る丸山主将



後援会長 白井孝市氏



校長 壁谷宜男先生



主将丸山亮太選手
(田原中出身)



菜の花旋風を巻き起こした
応援団長 河合雄斗さん(野田中出身)



監督 稲谷寛文先生



教頭 山田貴三先生 教頭 中島秀吉先生



生徒会長
千葉温子さん(田原中出身)

地元出身選手



みんなでつかった 夢の舞台

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| ●河合郁哉 | 田原東部 | ●山田大輔 | 野田 |
| ●河合悠真 | 野田 | ●夏目治樹 | 田原東部 |
| ●小野晃佳 | 田原 | ●山本峻平 | 田原 |
| ●萩原匠峻 | 田原東部 | ●渡會界仁 | 野田 |
| ●中森貴也 | 田原東部 | | |
| ●丸山亮太 | 田原 | | |

調査は当時



甲子園への軌跡



糟谷監督を調上げ!

1月25日

毎日新聞大阪本社より
21世紀枠での甲子園出場決定の
連絡を受ける豊谷校長



3年連続で21世紀枠に
選ばれた記念の贈



出場決定後、都三列田原駅に
号外を貼り出す
毎日新聞社 社員



甲子園出場が決まり歓喜の成卓高校野球部ナイン



2月5日

市長より贈呈のお祝いの盾
[たこは田原たこ保存会の皆さんが作成]



オレ流! 糟谷流!



3月3日

韮山神社へ必勝祈願



3月5日

選抜旗授与式・社行会へ入場するみなさん
成卓高校 体育館にて



大林経長から一人一人、紹介された野球部ナイン



3月14日 健闘を誓う3人の勇士
左から安藤、成章(丸山くん)、
草薙高校の21世紀神出場の3主将



組み合せが決まり握手する
成章高校・丸山主将と駒大岩見沢・松本主将

合同練習



3月16日

成章高校対岡智(長野)高
校の練習試合。河原公園に
て合同練習を初めて行う邦
旗団、吹奏楽団、チアガール
のみなさん



夢のロードへ



健闘をたえる関係者の方々と
甲子園への夢のロードを
前に出発する瞬間



招待と笑顔に
胸をなやませー



いざ、
出陣!

3月17日

出発式にて激励の言葉を受けるナインのみなさん



3月21日

大会前日
明尾洲公園野球場にて練習。
観客監督の指示を待つ



リニューアルされた阪神甲子園球場



小松	1	成章	1
小松	2	成章	1
小松	3	成章	1
小松	4	成章	1
小松	5	成章	1
小松	6	成章	1
小松	7	成章	1
小松	8	成章	1
小松	9	成章	1
小松	10	成章	1



開会式リハーサルで選抜旗を持つ丸山主将と各主将



悲願の初勝利!



試合当日、宿舎にて必勝朝食!あいかわらずのパワー



夢のパスポート



36年ぶり2回目出場の球春



浪崎唯さんの先導で堂々と入場行進する選手たち



アルプススタンドの菜の花応援団

3月22日

6500人の菜の花応援団を前に入場行進!



魂の歌「成章高校 校歌」を初めて歌う瞬間



甲子園球場にて
団旗を掲げて
懸命の応援



春の旋風を巻き起こす吹奏楽団



第50回 記念選抜高校野球大会
成章高校 悲願の校歌高らかに 2008.3.22



夢の舞台で初勝利! アルプススタンドにかけよる成章高校サイン

元OB会長座談会 「成章高校野球部ここにあり」

成章高校野球部を長年にわたり支えて下さった方々にお集まり頂きました。

左より伊藤又次氏(第7代OB会長)、野尻鈴彦氏(第6代OB会長)、山本昌彦氏(前 野球部監督、第8代OB会長)



立花一夫氏
(元成章高校監督 第5代OB会長)



愛知県知事表敬訪問



OB阪本氏との縁で長嶋茂雄氏の激励
左より阪本氏、長嶋選手、山本監督(竹園旅館)



第44回大会
成章高⑧ VS 諫早高⑧(九州・長崎)

成章高 1 0 2 0 0 0 0 0 0 3
諫早高 0 0 4 1 0 0 0 0 X 5X

🔪 現役時代をふり返って当時の野球部のお話をお伺いします。野尻先生は、第2次世界大戦で敵国のスポーツということで農部となり昭和20年の終戦と共にいち早く野球部を復活させた当時のメンバーのお一人ですね。甲子園も昭和21年より復活したそうですが…

🍷 野尻氏(中30歳): 当時は15~16名の部員がいたのですが、野球用具も不足し、試合をする時も相手チームとグローブの貸し借りをし守備位置にグローブを置いて交代で使っていました。

🍷 ① ボールは粗悪品で、豚皮でできていて打つと変形しました。破れると縫って使い、5~6個のボールを交代でキャッチボールをしてニューボールは宝物をさわるように大事にしていました。

🍷 ② バットも大切にしていました。また、折れたバットに釘を打ちその上に粗悪なベトベトするテープを巻いて使ったこともあります。グローブも手袋の大きいようなもので5本の指がばらばらで手のひらの中心でボールをとらないと打球できないような状況でした。

🍷 伊藤氏(高4): 成章中学から成章高校になり男女共学になりました。立花先生が来て監督になり、東三河大会で初優勝しました。この立花先生が「成章高校野球部ここにあり」という言葉のスタートを切ったといっても過言ではありません。

🍷 ③ 私たちの時のグローブは外側は皮でしたが、内側は布製のものもありました。また紐で5本の指をつないで現在のグローブのように使ったりしたものです。

🍷 ④ 試合に行くとき新しいボールを使わせてくれてうれしかったですね。

🍷 ⑤ バットは野尻先生と同じように補修をしたり、山の木を切って来て木工屋でバットを作ってもらいました。山本氏(高6): 野尻先生が戦後復活させたメンバーのお一人で伊藤先生が「闘魂の野球部」を作りあげたメンバーのお一人ですが、立花先生率いる先輩に続けとばかりオール三河で春と秋に連続優勝しました。県大会ではベスト4進出し成章の名を知らしめたと思います。

🔪 山本先生から糟谷先生へとバトンタッチされたわけですが…

伊藤氏: 山本先生が一宮商業から成章高校へ赴任され、成章野球が変わりました。そして、成章の名を高めていかれたわけですね。

山本氏: 私は監督になるとすぐに次の監督のことをいつも考えていました。他校の監督経験者からは「選手に優しくなって叱れなくなったらやめた方がいいよ。」と言われていました。一宮商業の監督時代、東邦の近藤さんと中京の深谷さんという名監督が退かれた際に気が楽になりました。31才で成章高校の監督になり自然に教え子である糟谷くんが白羽の矢が立ったわけですね。彼は野尻先生が「いい選手がいる」と中学時代から成章まで通ってはどうかとラブコールした人です。当時は野尻先生がいい選手がいるとすぐに知らせてくれ一緒に見に行きました。当然、文武両道でないといけないのですが、「地元で集めていることがすごい」とよく言われました。これも皆さんの御協力のおかげです。糟谷くんは就職が内定しているのに彼の父親に会いに行き1年という条件付きでコーチにきてもらいました。その後採用試験を受け合格したのでそのまま残ってもらうことにしました。

🔪 「私の野球を批判できるようになったらいつでも退くので5年待て」と約束通り5年後私が40才の時、糟谷くんが監督をゆずり部長という形で残りました。

🔪 「野球は監督のばかしかいりません。しごをかける場合で、勝てないのは監督の判断の悪い場合が多いです。勝つ時は感がさえ、うつろうつろが全部当ります。選手がサインを見落とす以外すべて監督の責任です。おもしろいから365日続けられる。」

🔪 昭和47年に初の選抜出場の際には如何でしたか?

野尻氏: 夢みたいでした。県大会で、よく中京を相手に勝った。東海大会で浜松商業に勝った時は涙がでました。ましてや甲子園に出場できるなんて感無量。

伊藤氏: 夢にまでみた甲子園に母校が出場できるなんて、とにかくうれしかったです。確か、キャプテンの鈴木尊くんを中心としてよくまとまったチームでした。

山本氏: あの時は反省ばかりありません。「うれしい」とは思いませんでした。両肩に重いものを背負われ、実を言うとうたから言えるのですが「絶対勝つ」とと前向きで言っていました。「いかにこのままゲームが終わっていかないか」の一念でした。野尻監督の堀美政雄先生(成章OB、戦後時習館高校監督として甲子園出場)が「靴を洗って1点でもいいから取ってこい」と激励してくれた時には気持ちも少し楽になりました。

🔪 今回の甲子園出場のご感想は?

野尻氏: 最後のセカンドゴロの瞬間「神様、仏様、ジーンとしました。念願の一勝。」あの感激は忘れません。

伊藤氏: 夢中で応援しました。暑さ、寒さも何も感じず、とにかくこのままゲームが終わってほしいかの一途でした。丸山君がファーストにかけこんだ時には、セーフと審判が下した瞬間本当にうれしかったです。この1点勝ちこしたシーンは一番印象に残り忘れられません。

山本氏: 今回は行けると思っていました。前回・前々回は全国で2校の出場枠でしたが今回は3校の出場枠。各ブロックで1校出場できたので、実は出発の前夜夢を見ました。それは甲子園で恋願の1勝をして校歌を歌いおえた後、走ってきた糟谷くんがネットからひとさし指を出して選手をした夢でした。その事を出発直前に糟谷くんを呼び止めて話をしたせいかな。正夢になりました。糟谷くんが来てくれ「ありがとうございます。」と手をさしのべてくれ、実際には糟谷くんがネットの周から選手をしてうれし涙を流しました。

🔪 夏の大会へむけてメッセージをお願いします。

野尻氏: 今年は東愛知と西愛知から一校ずつ出場できる大きなチャンスのある年です。打倒成章で他校がたち向かってくると思うので、何とか勝ってもらいたいし、初心に帰ってがんばってもらいたいですね。

伊藤氏: 以前本で読んでいたことがあります。「野球とは、一球一球の積み重ね。一打一打の積み重ね。一念一念の積み重ね。積み重ねの上に花が咲く。」毎日の練習に集中して甲子園を目指してほしい。

山本氏: 期待しているが故に心配です。だが、組み合せいかんで夢を見せてもらえるかなと思います。出場させたいと思う一念ですがシード校故、こちらが初戦で相手は2回戦目です。勝ち上がってくる学校は強く登り調子です。目標をもってがんばってほしいです。

🔪 本日は御多忙にもかかわらず、本当にありがとうございました。

応援ありがとうございました!

応援団賞 最優秀賞 受賞



応援団賞
最優秀賞



平成20年度全道高等学校野球大会出場に際し、盛大なるご支援をいただきまして誠に有難うございました。本校野球100年の夢であった甲子園で勝利を博し、しかも応援最優秀賞までいただきました。このことはひとえに東京会の皆様、地域の皆様を支えていただいたおかげです。今年も大変しくお祝い申し上げます。



夏に向かって...



教頭 山田貴三先生

悠遠の甲子園出場、応援団最優秀賞の受賞、地域や東京の方々の温かい声援が……。多くの皆様方によって実現した36年ぶりの甲子園出場は、私たちに大きな感動と喜びを与えてくれました。この感動が、野球部のみならず学校全体の活力の源となっていることを皆様方にお伝えし、お礼の言葉とさせていただきます。

校長 壁谷宣男先生

第20回記念全道高等学校野球大会出場に際し、盛大なるご支援をいただきまして誠に有難うございました。本校野球100年の夢であった甲子園で勝利を博し、しかも応援最優秀賞までいただきました。このことはひとえに東京会の皆様、地域の皆様を支えていただいたおかげです。今年も大変しくお祝い申し上げます。

監督 糟谷寛文先生

開会式後、試合前のメックの時にベンチから一歩踏み出しました。レフトスタンド、アルプス応援席の青色の大応援に感謝しました。声援のおかげで応援団員をはじめ成康高校一同の意気込みをあげることができました。学校・顧問・部員を代表して御礼申し上げます。これからも地域の皆様によって頂けるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

教頭 中島秀吉先生

甲子園の感動が今も脳裏に浮かびます。初勝利、応援団最優秀賞獲得も嬉しいですが、地域が一つになった高校野球の真の姿を見られたと思います。関係者の皆様にお礼申し上げます。

副部長 河合邦宗先生

甲子園出場に際して、学校関係者をはじめ地域の多くの方々の支えにより素晴らしい経験をすることができ、大変感謝しております。その経験を生かし今後も精一杯がんばってまいります。よろしくお願いいたします。



部長 大林省司先生

たくさんの方々の温かい声援のおかげで選手たちは思いきって頂き、とても幸せです。これからも皆さんの期待に応えられるようにがんばります。



コーチ 福井順之さん

試合に選手の体をメンテナンスするかわたわ外野へのメックを担当。

学年	名	学年	学年	学年	名	学年	学年
高	北山 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮下 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小川 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	河合 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	小野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	北本 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	藤原 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	大野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	山田 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	中野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	平野 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	田原
高	宮内 悠太郎	2	田原	高	藤原 大輔	1	